

## 第5回東北圏広域地方計画懇談会議事概要

### 1. 日時

平成21年7月2日（木）10:00～12:00

### 2. 場所

ホテルメトロポリタン仙台4F「千代」

### 3. 出席委員等（敬称略）

森杉座長、柴田副座長、生田委員、稲村委員、尾形委員、清水委員、鈴木委員、  
服部委員、浜岡委員、宮原委員、山田委員、吉田委員、若菜委員  
伊藤教授（東北大学大学院医学系研究科）

### 4. 議事（概要）

- （1）東北圏広域地方計画計画原案とこれまでの経緯等について
- （2）推進状況の検証について
- （3）その他

### 5. 主な発言内容

- ・ 事務局説明指標に基づき、今後の計画推進体制をつくっていくという内容である。
  - ・ 過去の経緯も含め、ご質問、ご意見を賜りたい。
  - ・ 特に、推進体制（PT）と、それに関連する指標について、あるいは、最近の景気の低迷という状況等を踏まえてこの推進体制をどのように重点化していくかという点について、ご意見をいただきたい。
  - ・ 資料の確認質問。
  - ・ 会議の事前送付資料について、こちらの広域連携プロジェクトの概要と、本日のスライドで映していただいた計画の概要の中で示されている広域連携プロジェクトの概要の中身が少しずれている。
  - ・ 聞き漏らしたのかもしれないが、今回私たちが議論するのは、今日頂いたこちらの参考の1の資料でよいか。
- 参考の1については、先ほども申し上げたが、合同会議として対応させていただいた第2回の協議会において、各構成機関の意見も大分集約し、パブリックコメントの整理に向けて最終確認を図るという状況までほぼ習熟した関係にある。
- 本日は、資料の2及び2-1について、今後の推進等、ご意見等をいただきたい。
- ・ その趣旨はわかったが、以前いただいた参考の1の方は、広域連携プロジェクトについてかなり詳細に書かれている。パブリックコメントの提示資料はどちらになるのか。
- 本日よりご紹介させていただいている資料は、パブリックコメント等に紹介している資料を

さらに集約し、文章等も政府与党関係等にも説明の際に使わせていただいているもので、内容を集約した形の資料になっている。

- ・ パブリックコメントについては、現在実施中ということによろしいか。
- 7月10日までの期間で実施中である。
- ・ 本日時点では、まだ意見公募中という状況ということを踏まえてご意見いただきたい。
  - ・ 1点確認させていただきたい。
  - ・ 参考資料の2で、広域連携プロジェクトが13あり、その計画に基づいて推進プロジェクトチームを7つ立ち上げたということだが、それに対して、該当の指標（案）が対応していないところが見受けられる。
  - ・ 要するに、7つの推進プロジェクトを動かしていくとなると、その7つを動かしたプロジェクトに対してそれぞれチェックしていくのが通常だと思うが、この案によると、13項目全部を見ますよということなので、その推進したものとその評価がずれているという感じを受けるが、その辺いかなものか。
- 推進PTの取り組みと、広域連携プロジェクトの取り組みは、基本的に同じ取り組みというふうに理解していただきたい。
- この広域連携プロジェクトの13のプロジェクト1つ1つについて、政策評価の観点からモニタリングを実施することとなっている。
- 申し上げにくいのだが、広域連携プロジェクトのモニタリング指標と、7つのPTの指標は、本来であれば一緒の方が望ましいかもしれないが、取り組み推進PTの方では、これからどういう計画を作って、どういう目標に向かっていくのかといったところを検討するものである。
- 「広域連携プロジェクトにおける具体的取り組みのモニタリング指標」と「推進PT」とは別物だと理解していただきたい。
- ・ 13のプロジェクトについては了解しているが、当面立ち上げる取り組み推進プロジェクトチームはどういう意味合いがあるのか。
  - ・ 13は大変だから、とりあえずここだけやってみようかということなのか。
- 推進PTについては、広域計画をつくったものの、具体的にどういうアクションをするのかが明確になっていない点を我々は一番危惧している。
- 構成機関のメンバーで具体的に実効性を高めるために、広域連携プロジェクトの中から喫緊に取り組んでいく課題について、7つのPTを立ち上げたと認識いただきたい。
- 広域連携プロジェクトを側面から支援する、広域連携プロジェクトで進めていく取り組みをさらに重点的に動かすプロジェクトチームというところで、7つのPTを当面立ち

上げることとした。

- ・ この7つが13のプロジェクトの中で最優先の課題であるととられる可能性があると思う。
- ・ 私は7つが最優先の課題だと思わないがこの辺はどういう議論の経過があったのかご説明いただきたい。
- 少し補足させていただきたい。
- 13のプロジェクトについては、それぞれ複合的な取り組みを柱立てとして13という形に構成機関の中で整理をさせていただいており、このうち、特に社会資本整備等とリンクするもの、各構成機関の中で既に取り組みが進み、立ち上がりは早期に可能なものについて、プロジェクトチームということで立ち上げた。
- 参画いただけるメンバーもかなり自主的に内容を把握されているため、早期に立ち上げることが可能であった。
- それから、中身によっては、今後の計画策定後、参画できそうなところを再度確認し、どう進めていくかをさらに検証しながら内容を詰めていく必要があるものということで、進捗度に差があると思っている。
- これは当面、早期に立ち上げて推進していくことが可能なものということで、構成メンバーの確認も得ながら整理させていただいているものである。
- ・ 当面立ち上げる取り組みプロジェクトチームは、いつまで整理をして、それを受けて、13の広域連携プロジェクトをどうやって取り込み、さらに実行していくかという全体像を見せていただかないとわかりにくい。
- ・ この7つのプロジェクトチームが取り組みやすいものという観点からすると、もう少し緊急でもっと重大な課題を忘れてしまう可能性があるのではないかと危惧する。
- 1つ目の全体像の件については、現在各PTに主査機関を設けており、その中で今後どういう目標で進めていくかを検討いただいているところである。
- その目標値が広域連携プロジェクトのどこの部分に該当するかを、今後詰めていく必要があり、そこは主査機関が独自に広域連携プロジェクトの取り組みの中身を把握し、取り組むべき目標を定めることとしており、現在はその作業中である。
- 少し補足させていただきたい。
- PTは、第2回の定例会において構成メンバーの方からの「計画を決めてからどうやってそれを推進するのか。そこが非常に重要なポイントではないか」という指摘を受けて立ち上げを検討したものである。
- このときに、広域連携プロジェクトの13個1つ1つに推進体制をつくり、誰かが主体

的にそれをコントロールする形を構成メンバーの中でも議論したが、なかなかうまく整理ができなかった。

- そういう状況を受け、前回懇談会のときにも、個人的にこういう議論を進めさせていただいているということで、このPTの話を紹介させていただいた。
- 構成メンバーの中で、ある程度具体的なテーマ、進むべき方向性等が見えているものを取りあえず抜き出し、それについて具体的な推進体制の議論を進めていくということで、この7つのテーマを当面抽出し、それについて推進体制をどうするか、現在議論を進めている状況である。
- ご指摘のように、決してこれだけやればよいということではない。
- 資料下の「…」が、まさにこれから議論を進めていく中でも、更に重要なテーマが浮上し、それに対して主体的に進めていく体制の議論が出れば、当然、それはそのタイミングでPTとして立ち上げ議論を進めるということ考えている。
- 当面として、現在はこの7つのPTの立ち上げについて議論を進めている状況である。
  - ・ 今のことにも関連するが、参考資料2で、左側の13の広域連携プロジェクトの計画と、当面立ち上げる7つの取り組み推進プロジェクトチームについて、その2つを結んでい実線と破線があるが、この実線と破線の役割についてきちんと説明いただければ、これまでの疑問等に対する理解がよくなると思う。
  - ・ この実線と破線の意味を説明いただきたい。
- 破線と実線は、内容に違いはない。
- 何を示しているかという、例えば「新エネルギー等の導入の促進」であれば、広域連携プロジェクトの1番目と、それから、5番目と8番目が関連する。
- 関連項目、関連するプロジェクトがわかるようにしているものである。
  - ・ 関連するというのは、例えば「新エネルギーの導入」の方をメインとして、そこから見ると左側の方については3カ所に該当するものがあり、左側から右側の方にまとめて1つにしている訳ではないということか。
- その通りである。
  - ・ その部分が一番問題のポイントではないか。
  - ・ この3つは、例えば今の新エネルギーについては、1番と5番と8番が、いかにもこれが全部カバーして1番のPTでやるようだが、1番、5番、8番の一部をつまみ食いの形で事業としてやるという意味なのか。
- その通りである。
  - ・ その部分の説明がきちんとされていないため、先ほどの質問が出たのではないか。

- ・ 13の広域連携プロジェクトできちんと整理されているもののどれをつまみ食いの形で実施するかとなったときに、そのつまみ食いのところについて、もっと重要なものがあるのではないかというのが先ほどの質問だったように感じる。
- ・ その部分の議論をきちんと聞いてから考えることが必要だと思う。
- 先ほどの質問と関連するかもしれないので、全体像との関わりについて少しフォローさせていただきたい。
- 柴田先生からお話があったが、プロジェクトチームの方は、「当面立ち上がりが早い」、「内容も確認できそうなもの」、つまり、つまみ食い状態になっているのかもしれない。
- それから、これを推進していく上で、もう少しプロジェクト全体に即した具体的な取り組み内容については、各参加機関において、これから検討が進んでいくだろうと考えている。
- このプロジェクトチームは、具体的な進め方や内容について、確認を適宜いただいた後、協議会の幹事会や検討会議の方に必要な時期において適宜報告をいただく位置づけにしている。
- 全体の各プロジェクトについては、そういった各PTからの報告を受け、協議会の幹事会や検討会議において全体の進め方、更なる効果的な進め方について、報告をもとに検討を深め、検証につなげていければと考えている。
- ・ 各13のプロジェクトについて、少なくともモニタリングはやることになっているのだから、早いか遅いかは別として、いずれは全てやるということになる。この点は間違いないか。
- ・ それでは、なぜこの7つなのかということに関して、先ほどから聞いているがよくわからない。なぜ13ではだめなのか。
- 先ほど来、ずっと申し上げているが、「時間的制約」「内容が比較的わかりやすいもの」「早急に取り組めるもの」という観点で7つを立ち上げた。
- この7つに限定したものではなくて、今後、必要に応じてPTを立ち上げるということである。
- それと、例えば、新エネルギー等の導入のところで、1番目と5番目と8番目が関与するが、これを全体的に包含するようなものではなくて、どちらかという、その広域連携プロジェクトのごく一部を、ある部分を担えるもの、という形でPTの立ち上げを考えている。
- 先ほど副局長からも申し上げたが、13全てのPTを立ち上げることについては、構成機関の合意形成等々の問題もあり、立ち上げることがなかなかできなかった。

- ・ もう1つだけ確認させていただきたい。
  - ・ 例えば新エネルギー等の導入促進で、5番の「豪雪地域の暮らし向上」というのが、ここで処理されることに今のところなっているが、豪雪地域の暮らし向上と新エネルギー等の導入促進がそれぞれ対応することは、私には理解できない。
  - ・ もっと複合的だからこそ、広域連携プロジェクトの中に我々は立ち上げたわけで、新エネルギー導入促進のところでのこの部分を議論すると非常に平面的になってしまう。
  - ・ そういうことはしてはいけないと思う。
- 生田先生のご指摘、その通りだと感じる。
- 私共の当初のもくろみとしては、13の広域連携プロジェクトを設定しているので、プロジェクト一つ一つを推進するための推進体制を模索したいと考えていた。
- 例えば、今具体的にお話に出た豪雪地帯、これも先ほど事務局より説明した通り、内容的には大きく2つ、“雪の中で安全・安心に生活できる”と“雪をむしろ有利な資産、資源として活用させる”という異なった2つのテーマをそこの中に盛り込んでいる。
- そのトータルとして、どうやって推進していくかという体制をつくるのが理想的だと考えているが、これまでの時間的な余裕の中では、構成機関の議論まで到達しなかったというのが現実である。
- 今回提案しているのは、例えば「雪の利活用」というところで、エネルギーとして利用するところだけを抜き出して、新エネルギーの中にそういう議論も1つ包含して議論したらどうかというテーマ的な切り口でこのPTを構成している。
- この推進体制の話はかなり急いで進めているため、計画の決定以降、やはり、13の広域連携プロジェクトそれぞれをどうやって推進するかという議論は改めてやらないといけないと思っている。
- そのときは、今の話のようなことも含め、これは構成機関全体がそれに理解を示し協力体制を構築するところが非常に大きなポイントであり、少し時間をいただき計画決定後の宿題として、6章の中で推進体制について検討していくというふうに書いたところをまさにこれから進めないといけないと考えている。
- このPTでは、今できそうなところは先行的に進めるという提案としてお受け取りいただきたい。
- ・ 本来であれば、13のプロジェクトの推進体制があり、その中で特に喫緊かつ実効性が高いものを重点的に挙げるべきであるが、その位置づけが不明確なため、議論が紛糾しているのではないか。
  - ・ 事務局の説明では、基本的には再度、13のプロジェクトの推進体制の構築を今から行

- うため、そのご意見をみなさんに伺ったということである。
- 今、森杉先生に綺麗に整理をしていただいたが、本来の13の方が先にあって、その中から統一的なテーマを抜き出してPTとして進めていくのが理想的だったかもしれない。
- ただし、当初はこの推進体制の検討はもう少し後でやれば良いと想定していたところがあり、十分その議論まで行っていないというのが現在の状況である。
- むしろ、計画をつくる方かなり労力を費やしており、作ってから先どうやって進めるかという議論は、構成メンバーの中でもまだまだ進んでいない。
- そこはこれからの宿題として進めていかないといけないと考えている。
- ・ ちょうどいい意見をいただいたので、整合性ある推進体制を今後お願いしたい。
  - ・ 今の話に関連して意見を申し上げたい。
  - ・ 資料1の最後の94ページが気になった。
  - ・ 第6章の「計画の推進に向けて」のこの部分があまり書かれていないという気がする。
  - ・ 要するに、優先順位を何にして、どういう役割分担で、どういう体制で実現して、プロジェクトの相互関係をどうとらえていくかという、この94ページの「計画の推進に向けて」も計画の一部であるわけだから、もう少し詰める必要があるのではないか。
  - ・ 次に質問であるが、先ほどモニタリングの指標で9番目の農業・水産業の収益力向上プロジェクトの中に、①の項目に関して農業産出額が上げられているが、これで本当に東北の特性をとらえた取り組みがモニタリングできるのか不安である。
  - ・ 2つ目の食料自給率について、東北圏域の自給率をとらえるのか、それとも、全国的な自給率で見るのか、自給率のとらえ方を、計画との関係でお聞かせいただきたい。
- 前段の点については、資料1、本編の94ページにご指摘のとおり記載されている。
- ただ、先ほど来から説明しているとおり、プロジェクトチームの重要性は構成メンバーの中でも理解が共有化されており、具体的な内容は、先ほどの推進体制も含めて、まだ十分内容が詰め切れていない部分があり、それも含めて検討するという表現で、若干文章をあいまいにしたというところである。
- 本来ならば、そこまで議論を進め、どういう形で推進体制を構築するか構成メンバーの中で共通認識を持っていれば、その文言でここは表現できたと思うが、残念ながらそこまでの議論が十分では無く、先に計画が決まってから、走りながら考えていくという趣旨も込めて、ここでは「検討」というような言葉で表現している。
- 2つ目の質問の自給率の算出について、この資料そのものは東北圏全体として出すことになっている。

- 当然、食料自給率についても東北全体という形であるが、全体を出すためには各県単位ごとに取りまとめる必要があり、自治体で出せるかどうかポイントとなってくる。
- 社会資本重点方針の方の担当をしており、今の7つのPTの件について一言だけ申し上げたい。
- 広域地方計画と社会資本重点計画は車の両輪であり、私どもも同時にパブリックコメントをかけているところである。
- 2つをどうやってつなげていくか、この懇談会でも議論しているし、あちらの方でもやっているという中で、先ほどから何度もお話があったように、13を本来的にはウォッチングする委員会を立ち上げるのが筋であるが、計画を立てることを第一として走ってきたため、そこの整理ができていない状況である。
- そこは、多分推進室長が責任もってこれから関係機関を立ち上げるものと思っている。
- これまでではどちらかというと、霞が関が作った政策をどうやって我々がくみ取ってプロジェクトを立ち上げるかというような仕事の仕方が多かったが、先生方にこれだけ議論いただき、関係機関にも集まっていたいただきこのような広域地方計画、社会資本重点のブロック計画もできたので、東北発の今までに取り組んだことがないような、今までのスキームではなかなかできないことをみんなで勉強してみたいという気運が盛り上がったという状況である。
- 少しつまみ食いだというご指摘と、プライオリティーが十分ではないということは十分理解している。
- 例えば、PTの中には、世界遺産や、高度情報化、観光をもう少し前面にという議論もしたが、今の時点では、この7つで国の機関と県レベルの皆さん方とで合意形成が図られた。
- 先ほど事務局から言ったように、参考2の「…」に意味を持たせており、社会資本整備とはかかわりがないものでもPTとして立ち上げてほしいし、本来的に急ぐものも幾つかのプロジェクトチームを立ち上げて、個別テーマについて議論をしたい。
- よって先駆的に当面7つを立ち上げさせていただき、そこで失敗をしたり成功したりしながら、この10年の中で1つ1つ東北発のチームプレーが実現すればと思っている。
  - ・ 7つを上げた理由もよくわかった。
  - ・ それと13との関係もあるが、参考2のところの、先ほど言った、実線と点線をこの資料だけでみると、13のプロジェクトをこの7つの当面立ち上げるところで、全てリンクするような形で、ここで集約するというふうにとられかねない。
  - ・ 参考2のこの点線と実線は全部消していただき、それで、PTを立ち上げていないプロ

ジェクトや、13のどれにも対応していないPTというのがわかり、そこについては早急にプロジェクトを立ち上げなければいけないというのが明確になると思う。

- その意味で、この点線と実線は外し、13のプロジェクトを推進する中で、差し当たって当面立ち上げるのは7つという形を明確にし、その下に、これから立ち上げていくというふうになるとわかりやすいと思う。また、誤解も解けると思う。
- 参考2のところで、私も13のプロジェクトとどういう関係があるのか、全く同じ議論。
- 一つだけ、多分ここに参加している先生方もそれぞれ専門の領域の観点から見ると、どこから見てもこの7つのPTが結びつかないものもあるのではないかと思う。
- 例えば、私はこの懇談会の中で、広域連携プロジェクトでいうと、6番にかかわって意見を述べさせていただいた。
- 6番にかかわる話では、これまで整備局の方々と一緒にいろいろやってきたし、例えば、農村と都市との連携をコンパクトシティの議論の中でどういうふうに組み立てていくのかとか、いろいろな課題をその中で整理してきたつもりである。
- そうすると、私自身はこの取り組み推進プロジェクトの中に、例えば6番から言うと、該当するプロジェクトチームが思い浮かぶ。
- 皆さん方がどういう議論をしてこれを救急医療体制の構築と結びつけたのかが私には理解できない。また、このようなことが皆さんの中でもそれぞれあるのではないかと思う。
- 都市と農村の連携では、最近東北地方の中で農村地域における土地利用等を計画サイドとの連携で進めるというような先進的な取り組みが全国的にも幾つか出てきている。
- 私が想定する6番の該当プロジェクトチームと事務局案のPTは合わないように感じる。
- 柴田先生が言われたように、線は切り離しておいた方がわかりやすいかもしれない。
- 真っ直ぐつながるものはつなげておいてもいいと思うが。
- これはつながりだけではなく、この資料そのものがすごく変わってしまった気がする。
- 例えば1番の、本編で言うと、73ページ、74ページ。
- ここに循環型社会の話があり、この参考資料の1でも、3ページのところに循環型社会の話があるが、前はリサイクルポート、要するに酒田港や能代港という話が出ていたと思うが、本編だと、“リサイクルポート”が一言も出てこない。また、具体的には八戸港しか出てきていない。
- また、森林が2つになって、PTの方でたくさんカバーするみたいな形に急に変わったのではないか。今までいただいた資料と大分違う気がした。

- ・ グローバル・ゲートウェイについても、新潟港なんて完全にすっ飛んでしまい、一言も出てこない。これは一体どういうことか。
- ・ 随分前の資料と、今は比較できないが突然変わった気がする。何となく絵も変わっているが、それ以上に内容が変わってしまっている。グローバル・ゲートウェイでどうしてこういう話ばかりになってしまうのか。北米との関係もあったはず。
- ・ ほんの1カ月前と変わっている気がする。リサイクルポートという言葉が一言も本編に出てこないのはどういうことなのか。
- ・ 私が前回、新エネルギーではなく低炭素循環型社会の構築というときに、東北地方整備局が主査機関をやるべきと言ったのは、この森林の話ではない。
- ・ 当然リサイクルポートや国土交通省が所管となっている建設リサイクル、交通起源のCO<sub>2</sub>問題等を扱うものだろうと思い、東北地方整備局が主幹にならないでどうすると言ったのだが、広域連携プロジェクトの中では、住宅促進、森林整備という話になっている。
- ・ これだって、確かに地方整備局がやる必要があるのかもしれないが、すごく変わったと思う。
- ・ 要するに、皆さんの議論からすると、13の広域連携プロジェクト自身は多様な内容を含んでいて、プロジェクトチームをやらうとすると、13の1つ1つに対して3つも4つもプロジェクトチームができなければならないような広範な問題だと思う。
- ・ 例えば循環型社会は、そのエネルギーと森林だけでも3分の2でほとんど終わりという感じではなく、もっと沢山あるはずだが、それを7つのすぐできる、経済産業省なら新エネルギーと言えはすぐ調査費も何も予算がつくのであろうが、何かそっちから発しているように感じる。
- ・ 清水委員が言っていた様に、観光の話でも滞在型観光圏などが議論されていた。運輸局もそれに対して責任があり、よく取り組んでいたはずなのに、とりあえず広域バスネットワークだったらすぐできるというように、本質が完全にずれてしまっている感じがする。だから、プロジェクトチームを切り離し、7つのPTをできるところからやる、それはいいが、13の方までめちやくちやにしないでいただきたい。
- ・ これは明らかに前と違う。前に協議会で出たものははっきり覚えていないが、多分みなさんも違うと思っているはずである。これは全然納得がいかない。
- ・ 大分位置づけがわかってきたが、やはりもう少し丁寧に落とし込んでいかなければいけないと感じる。
- ・ 13のプロジェクトを含め、相当長期間にわたり労力をかけ、みんな忙しい時間を割い

て議論をしたので、それを当面取り上げるプロジェクトチームという形で整理をするときに、もう少し丁寧に落とし込んでいただきたい。

- ・ やはり、基本は13のプロジェクトの中で、それぞれ議論をしながら当面やるべきこと、もう少し時間をかけてやるべきことを選別しながら、その中で当面やるべきことについて、どうまとめて、さらに、どういう項目で早急に整理するか、その手続きが必要だと感じる。
  - ・ そこがなくて、突然出てきたから、私も稲村委員がおっしゃるように、高速バスネットワークを活用した移動手段の充実は当面の話だと思う。
  - ・ 現在、観光あるいはアジアとの関連で言えば、空港のあり方の問題も大切だと思う。
  - ・ 福島空港もANAが撤退しようとしている中で、空港のあり方の問題について、さらに言えば、観光や生活について、域内交通、地方鉄道だとか、路線バスだとか、そういったものの撤退基準が自由になってきてからどんどん廃止されている。
  - ・ そういった議論が喫緊の課題だと感じる。そんなことも含め、もう少し丁寧に議論していただきたい。
- 稲村先生と清水先生からご指摘があったとおりである。
- 計画の内容をどうやって具体化していくかについての議論がまだまだ不足しているのが実態である。
- それはこれから先の宿題として、計画内容で盛り込むときにどう具現化するか、どういう主体が、どういう責任のもとにやっていくかということは、これから十分議論しないとイケない。
- それから稲村先生の1点目のご指摘だが、前回示していたのは骨子であり、13のプロジェクトそれぞれに盛り込むべき事柄が全て箇条書きになっていた。それを文章化する段階でかなり整理が進んだことによる指摘かと思われる。
- もう1点は、個別具体的に事業の名称を入れさせていただいている。ただし、これは全国的な統一的なスタイルであり、あくまで代表事例を例示で入れるということであるため、本来であればたくさん入るべきところ、例えば港であれば1つの港の名前だけで代表し、その後ろに「等」を入れて全体が呼び込めるという形で整理したところがある。
- 個別具体的にこういうところが明示されていないのではないかという指摘は、そういう整理の中で生じてしまった事柄であると考える。
- ・ グローバル・ゲートウェイで新潟港、仙台港が記述されていないのは絶対おかしい。
  - ・ リサイクルでは、リサイクルポートの話、言葉自身が消えてしまうとか、八戸港だけが上がっているなんていうのは絶対おかしい。

- ・ 低炭素社会についても国土交通省だって責任があり、経産省と森林の話でお茶を濁すなんてよくない。
- 7つのプロジェクトチームが出たから、こちらの本編が変わったということはない。
- ・ 変わっている。
- いや、そんなことはない。7つのプロジェクトでこちらにこういうことが立ち上がったから、こちらの方のリサイクルポートが削られたとか、そういう関係にはない。
- ・ 参考資料の1では「リサイクルポート」という名前が入っているのに、こっちの本編が入っていないのはどういうことか。
- それは後で説明するが、7つのプロジェクトチームが決まったから広域地方計画のところがドラスティックに書き方が変わったわけではないということだけのご理解をいただきたい。
- 今の先生のご指摘だが、例えば資料1の50ページのところ、環境産業の振興という中段の、20行目あたりに、「圏域内のリサイクルポートやエコタウン施設の活用により、リサイクル産業の新規立地を促進するとともに」という具体的な記述になっている。
- プロジェクトの方は74ページの循環型社会づくりの推進ということで、20行目以下になるが、ここは全体として、エコタウンの強みを生かした家電、廃プラ、焼却灰、水産加工廃棄物等のリサイクル拠点の形成を図ることなので、リサイクルポート等も加味した言い方で、集約して“リサイクル拠点の形成を推進”というような言い方になっている。確かに記述に若干違いがあるが、内容としては含んでいる。
- 27行目以下、「静脈物流ネットワークの構築へ向けて」ということで、先ほど事務局から申し上げたように、代表港を八戸港とさせていただいているが、これらの連携の中に、当然、酒田港等の活用も入っており、その辺は、構成機関の各県の方にご理解いただいているところ。説明不足となり申し訳ない。
- ・ 第4章の方はそんなに変わっていない。第4章に書いてあることと第5章に書いてあることが違うと言っている。
- ・ 第5章が一番重要だと、パブリックコメントでもみなさんに説明している。
- ・ そのときはそういう話ではなかったのに、文章になって上がってきたら全然違う。第4章と第5章とでそんなに違ったらおかしいではないか。
- この点も我々の整理に不足があったのかもしれない。
- 第4章のところは総合的な政策ということで取りまとめた。第5章はそれらをもとにしてどう具体的な取り組みを推進していくか、第4章との内容の差別化、具体のものを集約しながら書くということで、しかも、一定のボリュームの範囲内で集約して欲しいと

いう要請もあり、確かに記述は少し省略してわかりにくくなっているが、内容については、構成機関の方々と議論しながら整理させていただいた。

- ・ この点は、後日、事務局より稲村先生へご説明いただきたい。
  - ・ いただいた資料の2-1のモニタリング指標で、該当指標案というものが並んでいるが、何も書いていないところは、今のところ該当指標がないということであるが、例えば「地域づくりコンソーシアム創出による地域支援プロジェクト」のところは、対応する指標が何もない。
  - ・ また、地域医療支援プロジェクトについても、第三次救急医療機関以外に何もないという感じで、随分ないところが多いが、もう少し何かあるのではないかと感じる。
  - ・ それと、気になるのは、マイナスの指標、例えば8番で企業の立地件数を載せているが、むしろ東北なんかの場合だと、閉鎖、倒産企業が非常に多いということもあり、マイナスの指標も必要なのではないか。
  - ・ 例えば1番の森林整備面積について、荒廃放置面積なんていうのはどうなっているのかとか、廃棄物についても、一般廃棄物は非常に増加しているけれども、リサイクル率だけしか書いていない等、そういうトータルな指標としては、該当指標案にはマイナスの視点がほとんど抜けている感じがする。
  - ・ これは計画が前向きの計画だから仕方がないのかもしれないが、姿勢としてはそうあるべきではないか。
  - ・ また、厳しい情勢の中で、例えば農村の場合でも、就業人口の減少や高齢化の進展、そういう指標も必要ではないか。
  - ・ そういう意味では、該当指標案のところはもっと丁寧に、拾えるものはたくさん意見を聞いて拾っていただきたい。
- 生田先生からのご指摘だが、私共もぜひ先生方からお知恵を拝借したいということで資料を作成させていただいた。
- 要は、2-2の方が、いろいろな関係者の方からこんな案があるのではと示されたものだったが、どの指標を選択するのがいいか迷いがあり、本当にそれだけなんだろうかというようなこともあった。
- 資料2-1では、こういう指標ならば、皆さんご納得いただけるのではというところだけを抜き出し、それ以外のところは意図的に今の段階では個別具体のモニタリング指標のあてがないということにしている。
- 生田先生からご提案がございましたが、先生方にご専門の立場から、こういうところにはこういう指標があり得るのではないかとのご指摘をこの場でいただけると、大変あ

りがたいと考えている。

- 資料2-1と2-2の関係がわかりにくい。
- 確かに、資料2-2の黄色の部分が資料2-1になっておりこれは理解できるが、資料2-2の白の部分の位置づけはどのような状況なのかがわからない。
- これについてご説明いただきたい。
- 今の指標の件で、簡単にできるものという話をされていて、なるほどと思ったのだが、簡単にできるものだけではよくない気がする。
- 例えば、循環型のところで言えば、一廃、産廃のリサイクル率というのは、確かにこういうものはそうなのだが、実際、地域で循環型社会ができていくかどうかというのは、リサイクル産業がどの程度立地しているか、あるいは、そこで処理量が、山形県ではどういうふうな処理量、出荷量、生産額等、それが材別に、汚泥や自動車、家電、古紙、廃プラ等、そういうものを取り上げるべきだと思う。
- ただ、そういうデータはそう簡単にはない。環境省のデータを持ってくるというのであれば簡単だが、そうではなく、少しは地方整備局としてデータを揃える、調査をかけるぐらいのつもりでやっていただいた方がいいと思う。
- 特に、人材育成についても重要である旨の話をしたが、人材育成に係る指標はどこにもない。特に、廃棄物関係は流動データが非常に重要なのだが、このようなデータが一切扱われていない。これも集めるのは大変だが、ぜひご配慮いただきたい。
- 6番目の都市と農山漁村の連携・共生というのは、広域生活圏の形成という意味合いもあって非常に重要なところだが、そこでも地域連携の協定等という話が全然出てこない。
- そして、交通、カバー圏などあるが、その交通の流動が変化するというものもなく、だから、中心都市に向かっての流動がうまくいっているとか、それが変わってきたなど、確かにそういうデータは面倒くさいが、国土交通省でやる限りは、地域連携がうまくいっているかどうかという指標であれば、もう少しソフト関係の、広域生活圏の形成ということを目標とした指標を持っていただきたい。
- 8.次世代自動車について、これも、企業立地件数や関連産業等とあるが、やはり、域内調達率とか、そういうものはすごく重要であり、新たな立地より、既存の産業が自動車関連産業、自動車部品等そういった自動車企業に納入できるようになるということは非常に重要である。
- だが、それは企業立地からの把握は難しく、域内調達率や、部品の流動の変化等をとらえないと、集積拠点形成プロジェクトとしての推進がうまく出てこないのではないかとと思う。

- ・ 9番に関しては、輸出額等が選定されていないが、やはり、農水産業の収益力の向上プロジェクトということであれば、やはり流動データ、輸出入を含めた、そういう農水産品の流動がどのように変わっていくか、これがすごく重要である。
  - ・ 九州へ出荷できるようになった等、そういうことを含んだ指標をぜひ、難しいとは思いますが取り上げていただきたい。
  - ・ 農水省の需給表では、生産とかそういうものは掲載されているが、流動については無くて、辛いところではあるが検討をお願いしたい。
  - ・ 最後に、交流連携等については、これは輸出入と外国人宿泊者数等で把握することになっているが、滞在ビザの問題や、外国人居住者数、居住人口等を視点に加えていただきたい。
  - ・ 交流関係、特に、ロシア語、ハングル語のボランティア等が活躍したり、そういう草の根交流等も起こっており、このような指標をぜひ取り上げていただきたい。
  - ・ 総じて言えば、観光省、経産省、外務省の既存データにあるようなものじゃないが、ぜひ前向きに新たなデータを取り込んでいただきたい。
  - ・ 今の件は、基本的に項目としてデータをとることはかなり難しいかもしれないが、とにかく一度上げてみて、それが重要な指標であると位置づけができるのであれば整理をするという方向にしたらいかがか。
- 構成機関の方々と調整を図って検討したい。
- ・ 私のテリトリーの救急体制の構築の問題について、先ごろ、整備局と厚生局の方々と議論をした。
  - ・ 今の話と関連するが、これから、政策評価というのは非常に重要な社会機能となる。
  - ・ 今、いろいろな方から指摘されたように、計画が出来て、それをどう評価するかということであり、既にあるデータで評価できないというのは当然だと思う。
  - ・ それを、無いから今はこうだけれども、この広域計画の中で、その指標設定をどういうプランで考えていくかということも示されていない。
  - ・ 東北厚生局の方々とお話をしたときも、この救急体制でどのように考えていくかということで、指標の問題が出てきたが、調査を全てシンクタンクに丸投げし、データを集めようという話になった。それでは、既製のデータしか上がってこないわけで、その既製のデータで様々な評価に引用するという書き方になってしまう。
  - ・ この広域地方計画で、どれくらいでどういう指標を開発しようとしているのかという観点も含めて、ぜひ検討願いたい。
  - ・ 私の専門の9番の農水産業の収益力向上について、ここで記載されている中身では、農

業だけで水産業のことに一切触れていない。

- それから、評価指標の方でも、水産業に関するものが挙げられていない。
- 水産業について、何かプロジェクトや計画として立ち上げ、なおかつ、評価、モニタリングをしていくということも東北圏であれば必要だと感じる。
- モニタリング指標については、今見たので、十分自分なりに考えがまとまっていない。
- もう少し議論が必要だろうと感じる。
- 今回のこの計画というのは、単に計画を立てればいいという話じゃなくて、その結果として、地域だとか東北圏全体でどういう効果があるのかというところをきちっととらえなければいけない。そういった意味で、もう少し議論しなければいけないと思う。
- 例えば、先ほど申し上げた空港問題、これは非常に大きな話になると思う。
- このモニタリング指標の中で、定期の航空便が出ているが、地方空港で定期の航空便はおそらくあり得ない。相当落ち込みが予想される。
- そうすると、地方空港での指標というのは、チャーター便等、あるいは、場合によっては空港そのものをどうやって集客施設に変えていくかとか、そういった意味で、別の観点が必要。
- 空港の維持運営というのにはあり得ない。そういった意味で、別の指標をぜひお考えいただきたい。
- 幾つか、今日違っていた部分もありますけれども、もしよろしければ、運輸局さんと相談しながらいろいろご提案も申し上げていきたい。
- また、先ほどの山田さんの意見と似ているが、今回の東北圏の広域地方計画、あるいは前段の国土形成計画の議論、やはり、今回一番の目玉は進め方だと思う。
- いわゆるインフラ整備を含める計画をつくるのではなくて、どういうふうに進めていくのか、これが、今までの総合開発計画と全く違うところを感じる。
- そういう中で、この中に、いわゆる地域づくりの協働体の話が出ているが、この辺を地域毎にどういうふうこれから立ち上げていくのか、これは大きな話だと感じる。
- 同時に、その立ち上げた地域づくりのコンソーシアムと広域地方計画との絡みも重要である。
- そういったものが、進め方の中で、やはり見えてこない、単に今後しっかりやっていくということだけではいけないと思う。
- 先ほど、今後の進め方についてはまだまだ議論が足りないという話があったが、ぜひ、早急に、この辺の進め方についての議論を進めたい。
- 指標の話で二つ発言させていただきたい。

- 一つは、資料の2-1、地域づくりコンソーシアムについて、原案の方でも同様であるが、地域づくりコンソーシアムを創出することが目的になっているような感じがする。
- だから、該当する指標が出てこないのではないか。
- 地域づくりコンソーシアムをつくる目的、手段が目的化してしまっているような状況で、地域づくりコンソーシアムを何のためにつくるのかということをもう少し原案に描かないと、担当課も指標というのは出てこないと感じる。
- もう一つ、公共交通の関係で指摘させていただきたい。
- 6番の都市と農村の連携・共生によるところで、指標に公共交通の利用回数を出しているが、公共交通を利用することが目的にはならないため、利用回数が増えたからといって、このプロジェクトがよくなったということにはならないのではないか。
- 代替案としては、都市と農村の交流を高めるということが目的であれば、その区間の移動の分担率でコンパクト化していく、マイカーよりは公共交通の方が便利等。
- それによって、社会の持続性も高まるし、都市内歩行者の増加ということになれば、市街地も活性化するというようなこともある。
- 利用回数よりも分担率の方がむしろ合うと思う。
- まず、指標について、交通に関する指標というものが少ないと感じる。
- 先ほど、稲村先生のご指摘もあったが、さまざまなプロジェクトを行うときのベースになるところかと思うが、指標が共通項かもしれないが、何か出していくということが必要だと思う。
- 何分間到達圏という出し方の他、単純に所要時間を出していくとか、さまざまなとり方もあり、その点、もう少し考えていただきたい。
- 二つ目は、例えば、5番の豪雪地域の暮らし向上というような、生活に直結するようなプロジェクトについては、利用者の評価というようなものが指標の一つになるのではないかなと思う。
- さまざまな整備をしても、それが利用者の気持ちに反映されなければ空回りであり、生活、暮らしに直結しないということにもなる。
- そのような調査も行っていただきたい。
- 三つ目は、今後の指標の使い方について、今、現状がこの指標値であって、来年にはこの数字にする。もしくは5年後にこうするという数字が出るかと思うが、その数字を出すときの考え方というものをきっちりと整理していただきたい。
- どういう対策、施策によって、その指標がどのぐらい変わるかというような、簡単な関係式や、関係をつくっていくということが今後の対策のとり方に非常に影響すると思う。

- 根拠なく数字だけ出すというのでは、うまくいかなかったときに、今後どのようなことをすればいいか、その目的を達成できるかということについて、対策を出しづらくなると思う。
- そういうところもしっかりと押さえていただきたい。
- 全体の計画がそもそも何のために検討してきたのかというところが見えなくなると、不毛な感じがしてしまう方も出てくるのかなと思う。
- 恐らく、当面立ち上げる取り組み推進プロジェクトチームのところの部分で、わかりやすいもの、立ち上がりやすいものを優先したということだったが、恐らく、予算化されやすいもの、実現の可能性が高いものを優先してピックアップしたのではないかと思う。
- その辺の事情なんかについて、事前に各先生に説明があったらよかったのではないか。
- また、当面立ち上がるプロジェクトと、それから、今後立ち上げていくプロジェクト、項目だけでも出しておけば、こういう議論がなくてよかったのではないかと感じる。
- そこがないと、どこに対して、何の指標をといるところの関連が考えにくいところもあり難しいなと思う。
- これに関して、それぞれ、多分、専門の先生がいると思うので、各専門の先生のアドバイスでもう一度指標を再整理いただければと思う。
- また、実際に全部理想的な生データを収集して指標をつくっていくのは大変だと思うので、当面、2次データで活用できるものは活用し、その記載をわかりやすくしておく。それで、指標として不十分であれば、今後、こういう生データをとって指標としていくという目標を書いて整理されるといいのではないか。
- 今大変いいご提案をいただいた。
- 他の委員の先生方も、本日欠席の委員の先生方も、皆さん、こういった依頼には喜んで協力し、また、ご指導をいただけたと思う。
- 事務局の方で、ひとつじっくり分担体制を考えていただき、いい指標づくりをやっていただくといいのではないかなと思う。
- 今のことと関わりがあるが、この参考資料2で、当面立ち上げる取り組み推進プロジェクトチームが限定的だというのはよくわかるし、立ち上げやすいものだというのもよくわかる。
- ただ、これを進めていく上で、左側の広域連携プロジェクトの思想、考え方が十分反映されるような形で当面部分的なものを進めるというような姿勢も、リンクしているという意味で大事だと思う。
- この当面立ち上げるプロジェクトチーム7つの中には、広域連携プロジェクトを作成し

ている思想を理解している者の中に入れ、きちんと実行していけるような形のプロジェクトチームにしていただきたい。

- ・ つまり、広域連携プロジェクトと全く切り離れた、当面立ちあげる取り組みやすいプロジェクトというふうな形では、先ほど言った、リンクがうまくいかなくなる可能性があり、車の両輪だということがきちんとわかるような形でこの7つの方を進めていくということが重要ではないかと感じる。
- 当然、その7つのプロジェクトが具体的に動いていく際には、推進室が全体のウォッチをし、ある程度まとまったときに、協議会の仕上げがかかる前に、その内容を報告していただく。
- 一応、協議会の下にPTを位置づけるという形にしており、そういう体制で臨みたいと考えている。
- ・ 皆さんから出た意見と私もほとんど同様であるが、指標について、今回の資料1の94ページ、最終のところの「毎年度、各プロジェクトの推進状況を検証するとともに」という部分についてフォローアップのための指標だと理解してよろしいか。
- ・ 結局、指標によって毎年検証し、計画を変えていくということの原案にするということだと思うので、この指標というのは非常に大事だと思う。
- ・ 今の状況では、まだ内容は充実されていないが、これが今後の10年間の計画の推進のために大きな役割になると思われる。
- ・ その辺は、これからも十分に議論していただきたい。
- ・ 他にご意見はございませんか。
- ・ それでは、本日は、計画そのものについては、ご承認をいただいた後ですので、報告だけにとどまっておりますが、推進する体制ということについて、その体制と指標というもののあり方をご議論いただき、大変有益なご意見をいただいた。
- ・ 特に、13のプロジェクトと、それと協議会とあるいはPTとの関係を丁寧に整理しておくことと、指標としては、なぜ、その指標が変化しているのかがわかるような手法を選択していくような指標づくりを、各委員の先生方から協力やご指導をいただきながら、今後、進めていくことができるのではないかと思う。
- ・ 以上で、今回の意見交換は終了させていただく。
- ・ 皆さん、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

以上

(速報のため、事後修正の可能性あります。)